

スーパーマーケット景気動向調査

2019年9月調査結果（8月実績）
（2019年9月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

景気判断DIは現状判断下げ止まりも、見通し判断は改善みせず

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+2.2の40.5、見通し判断は前月から-0.9の36.5となり、現状判断DIはわずかな改善となったが、見通し判断は小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べ大幅に上昇したものの、いずれもマイナス圏での推移となった。お盆商戦で高単価商品が好調だったことで、客単価DIが上昇し、わずかながらプラスに回復したものの、来客数DIが二桁マイナスとなったことが影響している。

カテゴリー動向調査では、前年天候不良により高騰した青果相場の反動により-22.3と大きくマイナスとなった。上旬から中旬にかけては気温が上昇し、夏物商材が好調となったことで、前月気温の低下により低迷した日配DIや一般食品DIを中心に大幅上昇をみせた。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、大幅な悪化となった前月から、現状判断こそやや下げ止まりをみせているが、見通し判断はさらに悪化する結果となった。そのため、長期傾向みた周辺地域景気判断DIの下降トレンドは継続している。（長期傾向についてはp11参照）

中旬までは夏らしい気候がもどったものの、お盆時期の台風接近による影響を受けた地域も多かった。特に夏場は、台風や豪雨による来客数や帰省客動向、気温の変化による売れ筋商品の変化が大きく、スーパーマーケットが受ける影響は大きい。近年夏の天候が安定しない状況が続いており、自然現象とはいえ、それに対する防衛策や抵抗力の構築が急務となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：40.5 (+2.2) 前月：38.3	消費者購買意欲DI 当月：40.2 (-0.4) 前月：40.6	周辺地域 競合状況DI 当月：38.6 (+0.3) 前月：38.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：42.0 (-0.7) 前月：42.7
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：36.5 (-0.9) 前月：37.4	消費者購買意欲DI 当月：37.2 (-2.8) 前月：40.0	周辺地域 競合状況DI 当月：38.4 (+0.4) 前月：38.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：39.8 (-1.8) 前月：41.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-13.3 (+9.7) 前月：-23.0	客単価DI 当月：0.3 (+8.1) 前月：-7.8	来客数DI 当月：-15.1 (+4.6) 前月：-19.7	
収益DI 当月：-7.1 (+11.0) 前月：-18.1	販売価格DI 当月：1.1 (-0.4) 前月：1.5	生鮮品仕入原価DI 当月：-0.7 (-1.1) 前月：0.4	食品仕入原価DI 当月：3.3 (+0.5) 前月：2.8

カテゴリー動向

青果DI 当月：-22.3 (-0.8) 前月：-21.5	水産DI 当月：-3.7 (+7.3) 前月：-11.0	畜産DI 当月：-6.8 (+8.1) 前月：-14.9	
惣菜DI 当月：-4.1 (+3.0) 前月：-7.1	日配DI 当月：-9.0 (+11.6) 前月：-20.6	一般食品DI 当月：-5.6 (+18.7) 前月：-24.3	非食品DI 当月：-5.1 (+10.8) 前月：-15.9

※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

マイナス幅を縮小するも二桁マイナスが続く

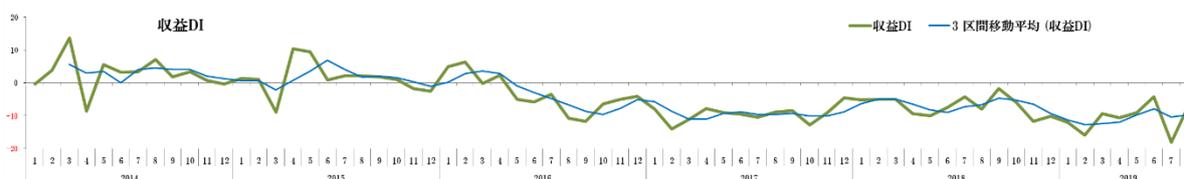
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	27.3	47.0	16.9	7.7	1.1	-23.0
売上高 (当月)	16.7	39.7	25.0	17.3	1.3	-13.3



2. 収益DI

マイナス圏での推移ながらマイナス幅を縮小

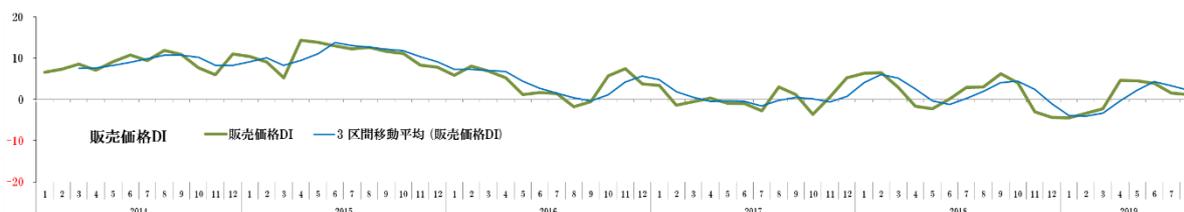
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	18.9	48.3	20.6	10.6	1.7	-18.1
収益 (当月)	12.5	34.2	28.3	19.1	5.9	-7.1



3. 販売価格DI

小幅なプラス水準を維持

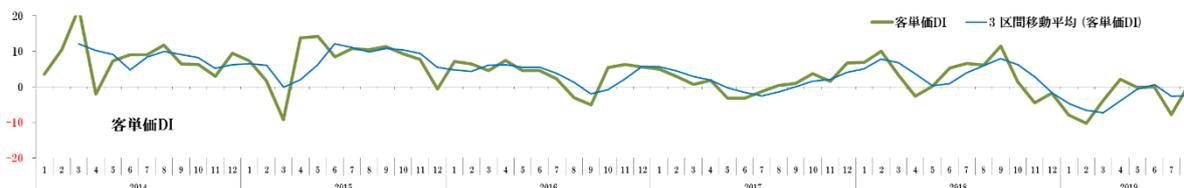
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.1	16.0	58.6	24.3	0.0	1.5
販売価格 (当月)	0.0	18.7	58.7	21.9	0.6	1.1



4. 客単価DI

わずかなプラスに転換

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.7	39.3	44.3	13.7	0.0	-7.8
客単価 (当月)	2.5	22.3	46.5	28.7	0.0	0.3



5. 来客数 DI

二桁マイナス水準での低迷が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	19.7	49.2	21.9	8.7	0.5	-19.7
来客数 (当月)	14.0	47.1	25.5	12.1	1.3	-15.1



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなマイナス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.9	18.4	50.3	26.8	0.6	0.4
生鮮仕入原価 (当月)	2.7	20.7	54.0	22.0	0.7	-0.7



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	5.0	13.3	47.8	33.3	0.6	2.8
食品仕入原価 (当月)	2.0	11.3	61.6	21.9	3.3	3.3

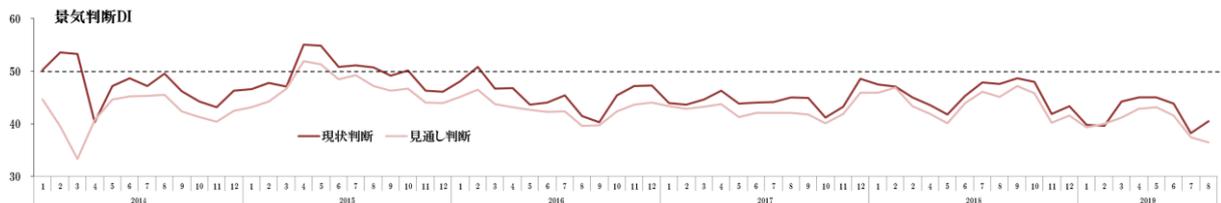


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断はやや改善も、見通し判断はさらに悪化

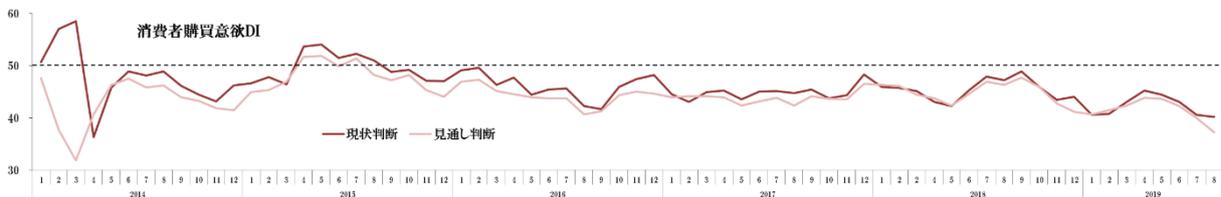
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.5	41.0	48.6	4.9	0.0	38.3
【現状】景況判断 (当月)	5.7	32.3	56.3	5.7	0.0	40.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	8.7	37.2	49.7	4.4	0.0	37.4
【見通し】景況判断 (当月)	7.6	43.3	44.6	4.5	0.0	36.5



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は横ばいも、見通し判断はさらに悪化

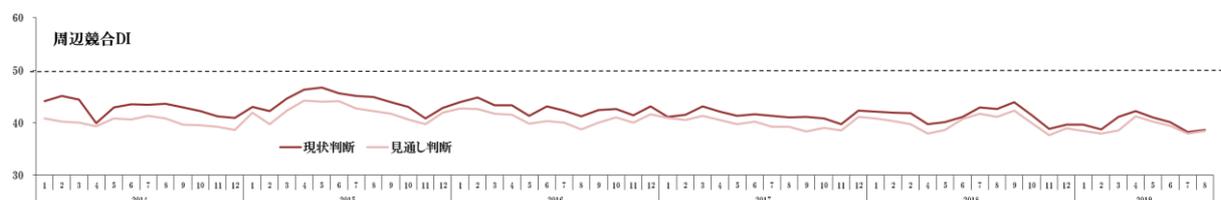
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.2	37.7	55.7	4.4	0.0	40.6
【現状】購買意欲 (当月)	4.4	36.1	53.8	5.7	0.0	40.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	3.3	36.6	56.8	3.3	0.0	40.0
【見通し】購買意欲 (当月)	5.7	42.4	49.4	2.5	0.0	37.2



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともほぼ横ばい推移

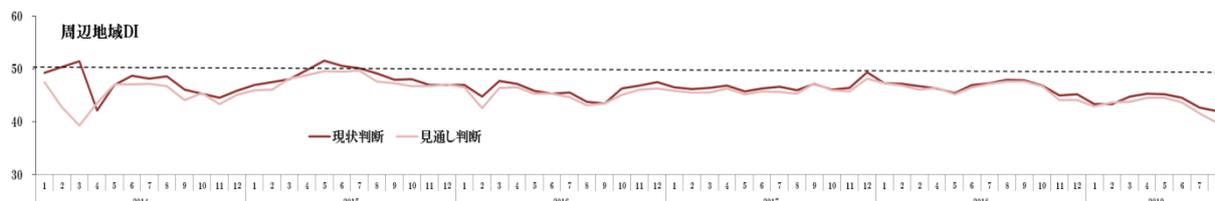
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	8.2	32.8	56.8	2.2	0.0	38.3
【現状】競合状況 (当月)	6.3	34.8	57.0	1.9	0.0	38.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	8.7	32.8	56.3	2.2	0.0	38.0
【見通し】競合状況 (当月)	5.1	38.0	55.1	1.9	0.0	38.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

見通し判断の悪化が目立つ

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	28.7	68.5	1.7	0.0	42.7
【現状】地域景気 (当月)	1.3	29.9	68.2	0.6	0.0	42.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.2	30.4	66.3	1.1	0.0	41.6
【見通し】地域景気 (当月)	3.2	35.7	59.9	1.3	0.0	39.8



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

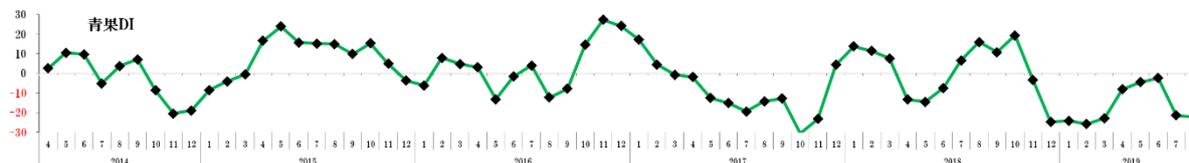
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年8月には現状判断DIは42.0まで低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-22.3（かなり不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果(前月)	25.6	44.8	20.3	8.7	0.6	-21.5
青果(当月)	28.4	44.6	15.5	10.8	0.7	-22.3



前年猛暑や台風被害などの影響で野菜相場が高騰した反動で、葉物類を中心に単価が下落し大幅なマイナスとなった。上旬は気温が高く、ネギや大根などの薬味用野菜が好調となった。下旬は前年比で気温が低くサラダ商材であるトマトやレタスの動きが悪かった。旬のトウモロコシは動きがよかった。果物類では、前年猛暑で売上の伸びたスイカ、今年は出荷の遅れなどでブドウ、梨、桃が総じて不調となった。輸入果物ではバナナが入荷不足、キウイフルーツは前年 CM 特需の反動で不調となった店舗が多い。

2. 水産DI：-3.7（やや不調）

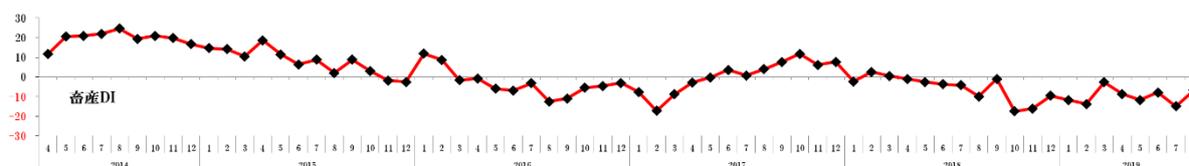
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産(前月)	12.1	39.9	30.1	15.6	2.3	-11.0
水産(当月)	8.1	31.1	33.1	23.0	4.7	-3.7



前年さんまは漁獲量がやや回復したが今年は不漁で入荷が少なく、特に不調となった。生イカも入荷が少なく苦戦した。気温の上昇により刺身類の動きがよかったが、お盆時期の台風による帰省客減少の影響を受けた地域もみられた。アニサキス報道の落ち着きにより、カツオには回復傾向がみられた。入荷が安定している鮭は好調だが、丸魚は入荷が少なく不調となった店舗が多かった。

3. 畜産DI：-6.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産(前月)	20.2	35.3	28.9	15.0	0.6	-14.9
畜産(当月)	11.5	33.8	28.4	23.0	3.4	-6.8



牛肉は気温上昇により焼肉やステーキ用は好調であるが、気候条件によりバーベキュー用商材は好不調がわかれた。お盆期間は和牛の動きがよく、それ以外は輸入牛が好調となった店舗が多い。相場の高めに推移した豚肉は冷しゃぶ用などは引き続き動きがよいが、全体としては前年並みとなった。鶏肉は相場の上昇により回復傾向がみられた。ハムやソーセージなどの加工肉は好不調がわかれている。

4. 惣菜DI：-4.1（やや不調）

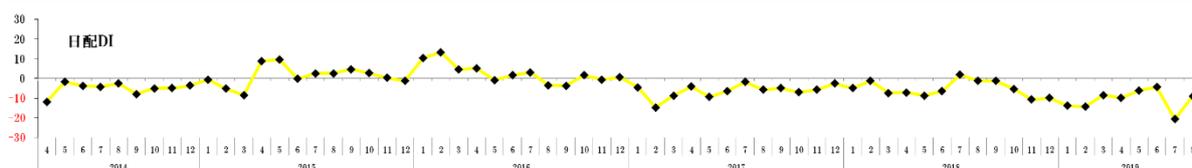
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	9.4	34.7	35.3	15.9	4.7	-7.1
惣菜（当月）	7.4	35.8	28.4	22.3	6.1	-4.1



上旬は気温上昇によりサラダ関連や、焼き鳥などのおつまみ商材、涼味麺商材などの動きがよかった。高温となった地域では、てんぷらや揚げ物類が敬遠されたとのコメントもみられた。お盆時期の寿司類やごちそうメニューの提案により高単価商品の動きがよかった一方で、オードブルは不調とする店舗が多かった。台風による帰省客減少の影響を受けた地域もみられた。

5. 日配DI：-9.0（やや不調）

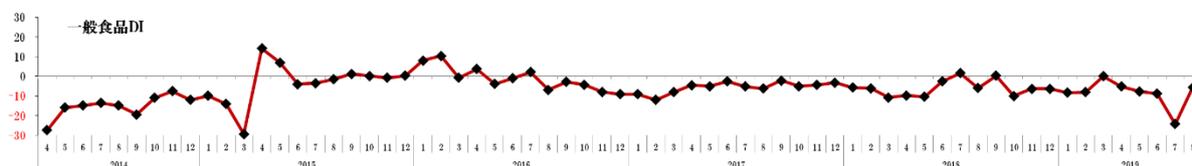
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	26.7	38.4	26.2	8.1	0.6	-20.6
日配（当月）	12.2	34.7	32.7	17.7	2.7	-9.0



地域により若干差はみられるが、中旬までは前年比で気温が高く、アイス、飲料など涼味系麺類や豆腐などの夏物商材の動きがよかったが、下旬に気温が低下すると伸び悩んだ店舗が多かった。和日配で納豆に加え、梅干しなどに前年特需の反動もみられた。洋日配ではバターやチーズなどの乳製品が好調となった。台風が接近した地域ではパンの売上に特需があった。

6. 一般食品：-5.6（やや不調）

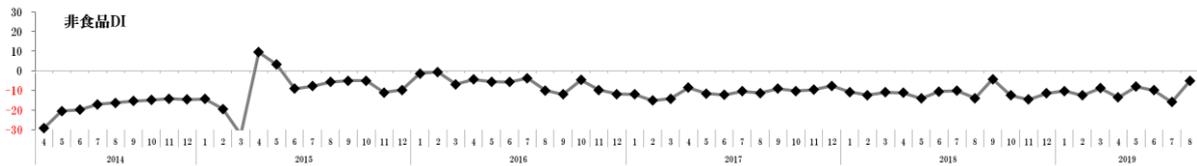
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	32.6	37.2	25.6	4.1	0.6	-24.3
一般食品（当月）	8.8	32.0	34.0	23.1	2.0	-5.6



地域により若干差はみられるが、中旬までは前年比で気温が高く飲料やそうめんなどの乾麺類を中心に、涼味関連商材、熱中症対策食材も動きが好調となった。前年猛暑の影響で不調となった調味料、野菜価格高騰により不調となったドレッシングは売上が回復した。酒類は気温差により好不調が分かれている。競合他業態との価格競争を指摘するコメントがみられた。

7. 非食品DI：-5.1（やや不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	22.0	33.5	32.3	10.4	1.8	-15.9
非食品（当月）	10.6	30.3	33.1	21.1	4.9	-5.1



8月中旬から増税前のセールを早めに実施し、売上が好調となった店舗がみられた。品薄報道がある紙類（トイレtpーパー、ティッシュペーパー）は動きがよかった。熱中症対策商品を中心に制汗剤、日焼け止め、殺虫剤などの夏物商材の動きがよくなった店舗が多い。ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競合の影響が大きくなっており、売場を縮小する店舗もみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2019年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 上旬気温上昇・下旬低下
2. 青果相場安（前年高騰の反動）
3. お盆時期の台風の影響による帰省客動向

（参考）2018年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 猛暑
2. 青果相場高騰
3. 来客数減少

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 158社
 7月実績確報版 183社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp